

NIE研究会が発足

情報、実践の共有の場に



学校の先生が中心となつているNIE研究会(会長・山内彰)が21日、発足した。当面は2カ月に1回程度、集まり、NIEの情報や知識を共有し、校内研修などを担う人を育てることを目指す。那覇市天久の琉球新報本社

県NIE推進協議会(会長)が21日、発足した。当面は2カ月に1回程度、集まり、NIEの情報や知識を共有し、校内研修などを担う人を育てることを目指す。那覇市天久の琉球新報本社

で第1回会合が開かれ、NIEアドバイザーの小学校や実践校の先生、記者ら13人が参加した。事務局長はNIEアドバイザーの兼松力先生(大里中)に決まった。山内会長は「研究会の発足は教育界、新聞界にとって画期的」と強調。兼松先生は「沖縄の取り組みはほかの



県と比べても内容が濃く、先進校になり得る。中心的役割を担うメンバーを育て

NIEアドバイザーや実践校の教師が中心となつて発足したNIE研究会21日、那覇市天久の琉球新報本社

たい」と力を込めた。NIEアドバイザーの甲斐崇先生(浜川小)は「情報や実践を共有する場が持てる」と話し、古波津聡先生(コザ小)は「NIE実践に関する知識を深め、引き出しを増やしたい」と語った。奥間ナリ子先生(小祿南小)は「NIEの成果を数値にできる研究も必要ではないか」と提案した。